

20190320\_戦略経営研究会\_医療ビジネス研究会\_議事録

日 時：2019年3月20日（月）19:00-20:50

場 所：東京／竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：病児保育プラットフォーム「あずかるこちゃん」

～医療×保育×テクノロジーで子どもと育児に関わるすべての人の笑顔をつくる～

発表者：園田正樹さん（医師、CI Inc. 代表取締役）

参加者：11人（財務コンサルタント、医師、会社経営、会社員、介護施設職員、大学生、NPO 法人理事長、行政書士、司法書士など）

目次：

1. 医師になるまでの歩み
2. 病児保育
3. 現在の事業
4. これからの展開

発表：

1. 医師になるまでの歩み

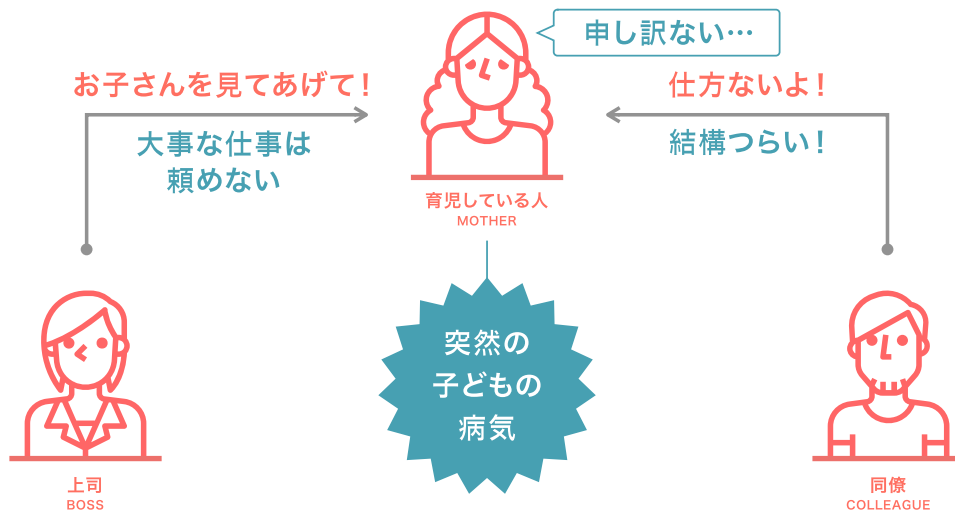
小学生の時、妹が膝の手術を受けました。担当医がとてもインパクトのある方でした。その医師のおかげで、泣いていると思った妹は、私の不安とは裏腹に、笑っていました。医者ってカッコいいかと思いました。中学生の時、白血病で同級生を亡くしました。大きなきっかけとなりました。彼の最後の一言は「もっと勉強したかった」でした。そこから、猛勉強を始めました。高校生の時、祖父が胃がんで亡くなりました。手術は失敗し、術後しばらくして祖父は亡くなりました。絶対、医師になると決めました。自分に関わる人にベストな医療を提供するために。大学は、佐賀大学の医学部に進みました。子どもが好きなので、産婦人科を専攻しました。

産婦人科医2年目での成功体験は次のとおりです。

- ①帝王切開を横切開へ変える意見を出して、実際に変えました。
- ②産後風疹ワクチンを導入しました。妊娠初期に感染すると、子どもは先天性風疹症候群となる可能性があります。出産後にワクチン投与し、次の妊娠からは安全になります。
- ③HPV検査を導入しました。自分の介入で現場、オペレーション、仕組みが変わることに大きなやりがいを持っていることに気がきました。臨床以外の方法でも人を助けることができることに喜びを感じました。

大学院で公衆衛生を学びました。そこで、病院から社会へ視点が移りました。

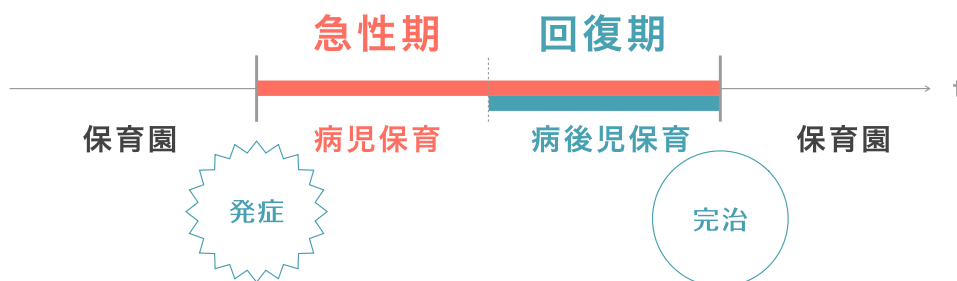
医師は病気になった人しか診れないことが多いです。病気から治った人は見えません。現場で感じていた課題は、産後うつや虐待などです。しかし、それらは産後1ヶ月しかフォローしない産婦人科医の前では起こることは稀です。ほとんどの方は「子ども」にはハッピーな印象を持っていますが、「子育て」はネガティブな印象を持つ方が多いです。子育てにより、仕事や家計のことが心配になるからです。安心して産み育てられる社会をつくる必要があります。それでは、いかにアプローチすれば良いのでしょうか。子どもの風邪など軽症であっても仕事を辞める人がいます。



突然の子どもの病気で、会社を休むとします。同僚は仕方ないと思っても、仕事がきつくなります。上司もこの人には大切な仕事は任せられないと、配置換えを考えてしまうかもしれません。「みんな悪くないけど、みんなしんどい」という状況になっています。働くお母さんの困っていることという調査によると、子どもの急病時の対応という回答が第一位になっています。この課題への解決策が「病児保育」になるのではという思いです。

## 2. 病児保育

熱が出ると保育園は預かってくれません。そのような子どものために病児保育施設があります。ここは保育だけでなくケアもしてくれます。病児保育には「病児」と「病後児」という定義があります。前者は主に病院が急性期の子どもを対応し、後者は主に保育園が回復期の子どもを対応します。



自宅で親が病児を対応することももちろんあります。しかし、親はケアしかできません。体温が 40 度に上がったら、大きな不安の中で親は子どもと過ごします。逆に、子どもがある程度元気でも、保育の提供はできません。はたして、この状況は子どもにとって、最適といえるでしょうか。看護保育の特徴は「医療ケア+保育」です。鼻水の吸引ができますし、遊ぶこともできます。スタッフの配置も、看護師 1 人に対して病児 10 人まで、保育士 1 人に対して病児 3 人までと手厚くなっています。利用料は 1 日 2,500 円程度が相場です。市区町村により利用料の高低があります。課題は施設の利用率が 30%なことです。実は、この素晴らしい社会資源は、あまり使われていません。理由は、使いづらからです。使いづらい 1 つ目の特徴が、大量の紙書類です。病児保育のフローには、事前登録、実際に子どもが病気になると、予約、診察、入室、保育、決済となりますが、そのすべてに書類が存在します。2 つ目の使いづらさが、電話予約です。30 分電話が繋がらないことも珍しくありません。

使いづらい病児保育のフロー

2019.03.12  
AZUKARUKO-CHAN  
Connected Industries  
Incorporated.

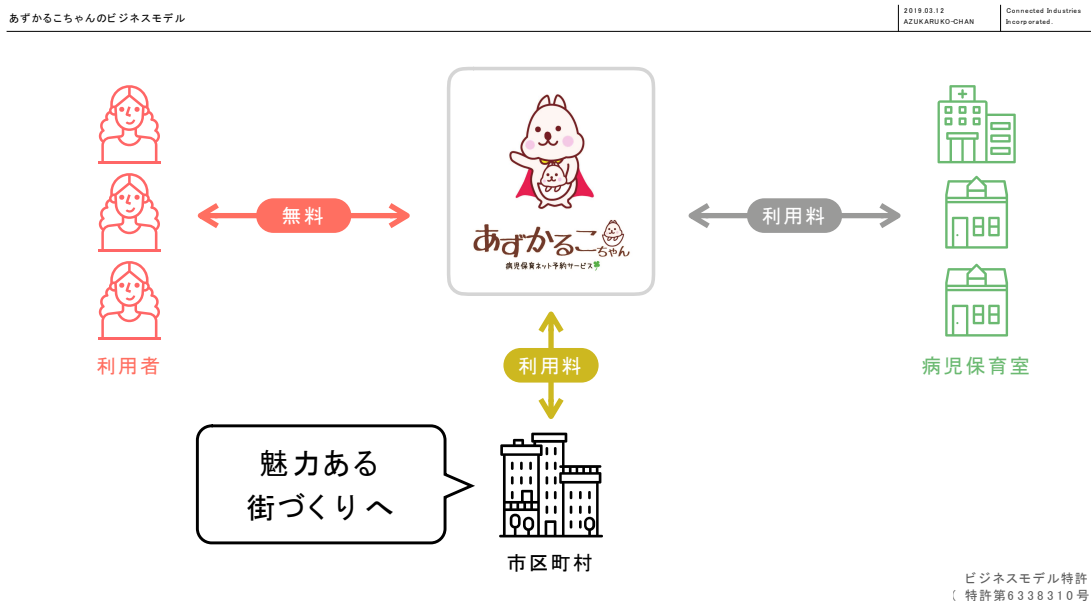


### 3. 現在の事業

上記の病児保育施設の課題をスマホで解決したいと考え、事業化をめざしています。4つの機能は以下の通りです。

- ①見える化です。スマホの Map 上に空いている施設が確認できます。
- ②複数施設の予約です。施設は当日のキャンセルが 30-70%もあります。朝になったら元気になったから保育園に行かせましたというポジティブな理由です。そこで、キャンセル待ちの人に連絡をしても、「もう会社を休みました」ということが多いです。これをオンラインで、解決します。
- ③オンライン問診です。受診前に情報入力は完了できます。書類と異なり、必要なところだけ表示することができます。実証実験を行っていますが非常に好評です。
- ④隔離対応部屋の最適化です。インフルエンザ以外の症状のために既に部屋が埋まってしまった場合に、インフルエンザに感染した病児は施設に入れないことがあります。そこで、部屋の調整をして、多くの人に使ってもらうようにします。

「あずかるこちゃん」のビジネスモデルは図の通りです。



利用者（保護者）は無料です。市区町村、病児保育室から利用料をいただきます。市区町村が現れるのは、市区町村からの病児保育室への委託事業だからです。病児保育はわかりづらい仕組みとなっています。制度と現場の課題がわからないとイノベーションは起こせません。市区町村は施設の利用率の低さを課題だと思っています。病児保育へのニーズはあります。市区町村は子育てしやすい魅力ある社会を目指しています。しかし、病児保育は標準化されていません。たとえば、先ほどの隔離対応部屋ですが、その運用ルールを質問したところ、とくに理由はないという回答でした。病児保育をより運用しやすく、使いやすくするために標準化は必要なことです。私はその標準化のルールメイキングにも関わっていきたく考えています。病児保育のプラットフォームをつくりたいです。保育園と連携し、安心のネットワークとしたいです。

病児保育はニッチでしょうか。毎年、100施設以上が新設されています。しかし、施設の利用率はアップしていません。厚生労働者は現在の利用者64万人を150万人に増やす目標を掲げました。私が行ったニーズ調査によると2,000万人と推定されます。このギャップを埋めるサービスを提供したいです。とはいえ、現在の施設のキャパシティは200-250万人です。このままだと施設が不足して解決しません。ベビーシッター、施設を造る必要があります。まずは、現在の施設のキャパシティに近づけたいです。あずかるこちゃんのシステムで使いやすくなれば、解決できるのではないかと考えています。では、使いやすくすれば本当に解決するのでしょうか。施設の利用経験がある方は12%です。利用経験のない方の75%は、まったくあるいはほとんど知らないと回答しています。現状、認知不足です。あずかるこちゃんのサイトにリーチしてもらい、認識してもらい必要があります。本当に実現できるでしょうか。当社のスタッフにはUX/UIデザインのプロフェッショナルがいます。これが強みになっています

#### 4. これからの展開

企業向けのプランを検討中ですが今後の展開となります。あずかるこちゃんのデータベースには、数年後、数百万件の母子手帳のデータを取り込むことはできます。5月、クラウドファンディングを開始し、広報のための資金調達を行います。病児保育が認知されていないという

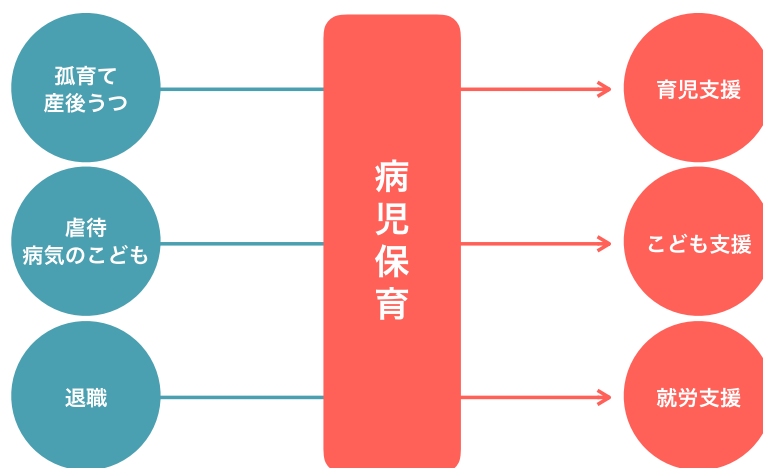
課題の解決を目指します。クラウドファンディングを介して皆さんに病児保育の存在を知っていただき、みんなで課題を解決したいです。7月、予防機能付きポータルサイトを立ち上げます。

あずかるこちゃんは現場のオペレーションの改善もできます。たとえば、先ほどキャンセルの多さをお話ししました。これをアナログにて、電話にて対応しています。改善により、保育に集中できる環境を提供できます。

はじめ、病児保育は女性の就労支援と思っていました。しかし、その本質がこども支援であることを知りましや。私自身、元々こどもが大好きで産婦人科医になった経緯もあり、こどものための未来を作ることの出来るこの事業のために生涯をかけて取り組もうと決めました。子どもの支援が病児保育の本質のはずです。子どもの笑顔が親の笑顔につながるはずです。価値観を変えていきたいです。保護者の方が、「子どもが病気なのに病児保育室に預けるなんて」といった後ろめたい気持ちになるようなことのないような価値観へと変えていきたいです。病児保育は育児支援だけでなく、子ども支援、就労支援になる素晴らしい事業です。

あずかるこちゃんによる現場へのインパクト

2019.04.24  
AZUKARUKO-CHAN  
Connected Industries  
Incorporated.



今までの価値観と未来はつながっていません。挑戦が成功よりも大事です。ワカモノ、ヨソモノ、バカモノの集まる、多様性のあるチームで、わくわくする事業を展開したいです。大切なのは、続ける勇気だと思っています。

以上